



## 全国学力・学習状況調査の結果・分析と今後の取組について



朝日町教育委員会

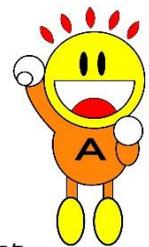
令和6年11月

今年4月に小学校6年生・中学校3年生を対象に行われた「全国学力・学習状況調査」の結果・分析と今後の取組をお伝えします。今年度も、どの教科（国語、算数・数学）においても、きわめて良好な結果となり、「強み」が多くみられました。朝日町教育委員会では、引き続き結果から分かる子どもたちの「強み」を生かし、「弱み」を改善できるよう、具体的な施策に反映していきます。保護者・地域の皆様には、家庭学習や生活習慣の見直しに向けてご協力をお願いいたします。

なお、この調査は、学力の特定の一部分を測るものであり、学力の全てを測るものではないことをご理解ください。

《全国学力・学習状況調査について》

[令和6年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領](#)を参照してください。



イメージキャラクター

「アーミン」

### Ⅰ 教科に関する調査の分析結果

#### (1) 本町における特徴的な傾向

##### ① 小学校

2教科とも、全国平均正答率を上回った。

国語では、ほとんどの設問が全国平均正答率を大きく上回っている。評価の観点別にみると、「知識・技能」の項目は7.9ポイント、「思考・判断・表現」の項目は8.2ポイント、全国平均正答率を上回っている。また、学習指導要領の内容別に見てみると、「話すこと・聞くこと」は8.0ポイント、「書くこと」は9.5ポイント、「読むこと」は7.4ポイント全国平均正答率を上回る結果となった。特に「自分の考えを理由を含めて書くこと」がよくできており、全般的に無回答率が低い。しかし、全国平均正答率が高い問いは、本校でも高い正答率であり、低い問いは低い正答率であった。全てにおいて高い正答率にはなっていない。

算数では、「知識・技能」の項目は1.2ポイント、「思考・判断・表現」の項目は5.0ポイント、全国平均正答率を上回っている。また、学習指導要領の領域別に見てみると、「数と計算」は4.6ポイント、「図形」は1.9ポイント、「データの活用」は5.4ポイント全国平均正答率を上回る結果となった。算数でも国語と同様に記述式の問題「求め方を説明して書くこと」がよくできている。しかし、全国的にも正答率が低かった体積や速さについては、本校でも同様に正答率が低く、中には、全国平均正答率よりも低いものもあった。正答数分布グラフから、正答数の2極化が見られる。

「思考力・判断力・表現力」は、これまでの取組の成果が表れている。学校全体で確実に力を積み上げていくために、どの学年のどの単元でどのような取組をしていくのかを共通理解し、授業改善を図ることで、強みを伸ばし弱みを改善していきたい。

##### ② 中学校

2教科とも、全国平均正答率を上回った。基礎基本について十分な定着が図られ、応用問題についても解決する能力が高いと考えられる。また、各教科において無回答も少なく、最後まで

で粘り強く問題に取り組んでいることが伺える。

国語に関しては、すべての領域で、平均正答率が全国平均を上回っている。全国平均を10ポイント以上上回っている問題を見ると、知識・技能、思考・判断・表現どちらの観点もバランスよく定着している結果が現れている。生徒質問紙の国語に関する質問に対し肯定的な回答が多く、国語を学ぶ意欲は高いことから今回の結果につながったと考えられる。

数学に関しても、すべての領域で、平均正答率が全国平均を上回っている。全国平均を10ポイント以上上回っている問題がほとんどであり、無解答も少ない。知識・技能、思考・判断・表現どちらの観点もバランスよく定着している結果が現れている。

(2) 本町における設問別特徴的な傾向 (◎…顕著な強み ○…強み ▽…弱み ▼…顕著な弱み)  
《各教科の設問について》

[令和6年度全国学力・学習状況調査の調査問題](#)を参照してください。

【小学校】 ( ) 内の数字は、全て全国との比較です。

本町における設問別特徴的な傾向 (◎…顕著な強み ○…強み ▽…弱み ▼…顕著な弱み)	
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方をくふうすることができるかどうかをみる (+15.5)</li> <li>◎ 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる (+10.2)</li> <li>◎ 漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる (+15.8)</li> <li>◎ 文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる (+11.5)</li> <li>◎ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかどうかをみる (+11.5)</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる (+15.2)</li> <li>◎ 示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる (+10.5)</li> <li>○ 角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる (+9.1)</li> <li>▽ 速さの意味について理解しているかどうかをみる (-4.1)</li> <li>▽ 問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる (-3.9)</li> <li>▽ 球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる (-3.7)</li> </ul>

【中学校】 ( ) 内の数字は、全て全国との比較です。

本町における設問別特徴的な傾向 (◎…顕著な強み ○…強み ▽…弱み ▼…顕著な弱み)	
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 行書の特徴を理解しているかどうかをみる (+17.4)</li> <li>◎ 目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる (+16.8)</li> <li>◎ 話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる (+12.3)</li> <li>◎ 資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができるかどうかをみる (+10.4)</li> <li>◎ 文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる (+10.1)</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる (+9.8)</li> <li>○ 文の成分の順序や照応について理解しているかどうかをみる (+9.5)</li> <li>○ 表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる (+9.3)</li> <li>○ 表現の技法について理解しているかどうかをみる (+8.4)</li> <li>○ 文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができるかどうかをみる (+8.2)</li> <li>○ 短歌の内容について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる (+8.0)</li> <li>○ 必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる (+7.9)</li> <li>○ 目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる (+7.7)</li> <li>○ 意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる (+7.6)</li> <li>○ 具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる (+6.8)</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる (+18.6)</li> <li>◎ 筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる (+18.0)</li> <li>◎ 複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる (+17.9)</li> <li>◎ 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる (+17.2)</li> <li>◎ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる (+14.2)</li> <li>◎ 与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかをみる (+14.0)</li> <li>◎ 統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる (+12.1)</li> <li>◎ グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができるかどうかをみる (+11.4)</li> <li>◎ 一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかどうかをみる (+11.3)</li> <li>○ 連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる (+9.7)</li> <li>○ 等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる (+9.2)</li> <li>○ 回転移動について理解しているかどうかをみる (+8.3)</li> <li>○ 簡単な場合について、確率を求めることができるかどうかをみる (+8.2)</li> <li>○ 二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる (+7.2)</li> <li>○ 事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見出すことができるかどうかをみる (+6.9)</li> <li>○ 問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる (+5.9)</li> </ul>

(3) 本町における平均無解答率の状況

<小学校>

平均無解答率	国語	算数
朝日町	1.7	1.5
三重県	3.4	2.9
全国	4.2	3.4

<中学校>

平均無解答率	国語	数学
朝日町	1.8	5.6
三重県	3.8	10.3
全国	3.9	11.3

朝日町における平均無解答率は、小中学校とも全国平均を大きく下回っており、全体的な傾向として児童生徒が最後まで粘り強く調査に取り組んでいたことがよく分かる。特に、中学校数学問題においては、全国比-5.7ポイントと大きな開きがあった。この平均無解答率の低さは、これまでの調査においても同様の傾向があり、朝日町の大きな強みの一つともなっている。

(4) 学力の強み・弱みについての分析と今後の取組

<小学校・国語>

強み	「自分の考えが伝わるように書く」「人物像や物語の全体像を具体的に想像する」など、自分の考えを相手に伝わるように書くことができる。
分析	国語科を中心に、根拠を明らかにして考えを書いたり話したりすることを授業の中で積み重ねてきた結果である。児童質問紙でも「国語の授業で、目的に応じて、伝える内容を考えている。」(+6.7)、「国語の授業で、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いている。」(+4.5)と回答している。
取組	自分の考えを言葉に表すことやそれを友だちに伝えることの大切さを学ばせるとともに、友だちの考えを聴いて自分の考えが広がったり深まったりする良さを感じられる授業を行っていくよう、授業改善と指導力向上に努めていく。
弱み	「漢字を文の中で正しく使う」のように、漢字を正しく書くことができているものの、「きょうぎ」については、正答率が全国と同様に約50%であった。
分析	家庭学習の時間(塾など含む)が全国平均と比べて、多いとは言えない。概ねの傾向はよく似ていて、平日は30分から1時間が一番多く、次いで1~2時間である。「家庭学習をしない」と回答した児童は、全国平均よりも低いが、3時間以上(休日は4時間以上)学習すると回答した児童も3~5ポイント少ない。テレビゲームやスマートフォンでのゲームや動画視聴を平日に4時間以上と回答した児童が、全国平均より3~4ポイント多い。
取組	当該学年で習得すべき漢字の読み書きが定着するためには、家庭学習での復習も必要と考える。「家庭学習の手引き」を目安にして、子どもたちが主体的に学べるよう指導の工夫を行っていくとともに、家庭への協力のお願いや啓発を行っていく。

<小学校・算数>

強み	「求め方と答えを式や言葉を用いて記述できる」のように、論理的な思考力や表現力が身につけている。
分析	「なぜ」「どうして」などの問いを大事にしながら、習熟度別少人数授業を中心とした授業改善を行ってきた成果が表れている。
取組	今後も、どのように説明することが相手にわかりやすいのかのモデルを示しながら、指導していく。また、学年に合わせて、「算数用語」や公式を正しく使えるようにするとともに、論理的な思考

	力や表現力を身につけさせ伸ばしていけるよう指導を行っていく。
弱み	「速さ」の意味が理解できていない。
分析	「分速」と「分速」を足し算している児童が多かった。また、公式を覚えていない様子もあった。
取組	単位量当たりの大きさ（速さ）については、全国的にも理解が難しい分野である。日常の具体的な場面と結び付けながら、意味理解をさせていくようにする。
弱み	問題場面を正しく読み取れていない。
分析	問題場面の「少ない」という言葉から、誤って減法を用いてしまったと考えられる。
取組	問題場面について、落ち着いて正しく読み取ること、見直しをすることなどを習慣づける。
弱み	球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができていない。
分析	球の直径の長さや立方体の一辺の長さが同じにもかかわらず、「直径」や「球」にとらわれたのか、「3.14」を使う児童が多かった。また、体積の公式と面積の公式を正確に覚えていない様子がある。
取組	面積・体積を学ぶ当該学年以降も、学習内容の定着を図るよう、朝の学習や家庭学習などを有効に活用していく。

< 中学校・国語 >

強み	話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる 目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる
分析	本文の内容を捉えさせたうえで、それを自分の言葉で説明させる時間を取っている。また、班活動やクラス全体など、他者との意見交流の時間を多く設けたり、タブレットや紙などに自分の考え・意見書いたりするなど、アウトプットする時間を多く取っていることが結果につながったと考えられる。
取組	今後も読解力向上の活動と自分の考えを持たせることを徹底し、それを他者に伝える時間を多く設けていく。自分の考えが他者にうまく伝わるように、語彙力が増える活動を増やしたり、表現の効果を考えて文章を書かせたりしていく。
強み	表現の技法について理解しているかどうかをみる 文の成分の順序や照応について理解しているかどうかをみる
分析	知識の定着を図るために、1・2年生の既習事項である表現技法や文法などの知識を繰り返し授業内で確認をした成果であると考えられる。
取組	今後も、定期テストで基本的な用語や文法は確認しつつ、授業内でも積極的に確認をしていく。
強み	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる
分析	毎週実施される漢字小テスト、文章を書く際に漢字を使う、わからない漢字はタブレットで調べてから書くという指導をしているため、少しずつではあるが漢字力向上につながっている。しかし、生徒

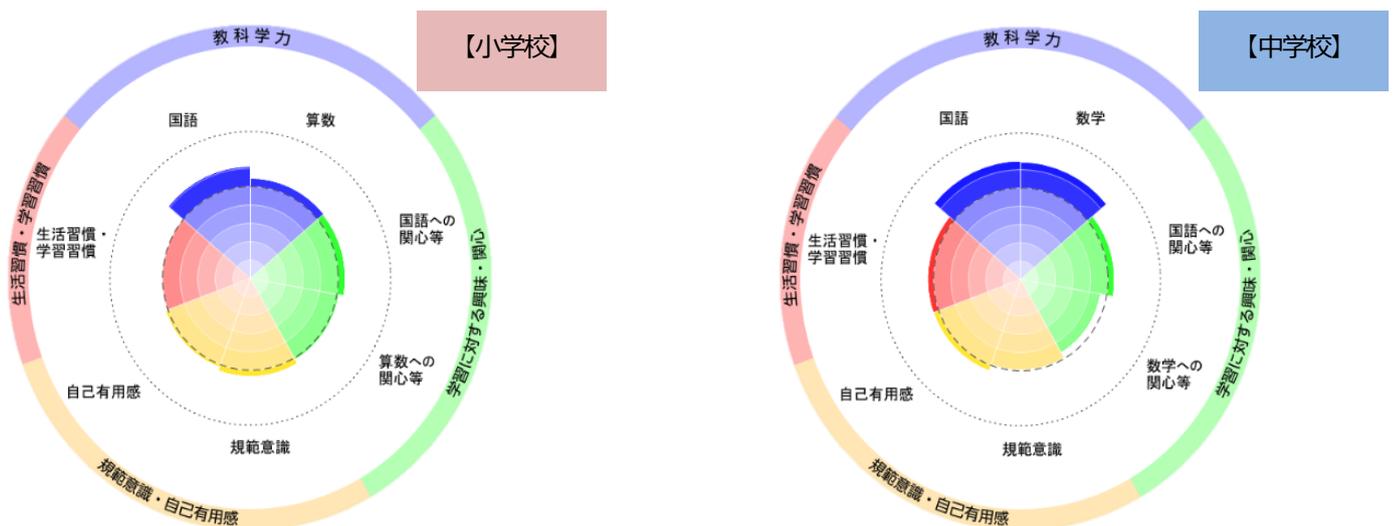
	の実態としては、漢字の読み書きが苦手な生徒、ぼんやりとした形でしか漢字を覚えられない生徒が増加傾向にある。
取組	作文や振り返りを可能な限り紙に書かせたり、学習した漢字がどのように使用できるのかを考えたりするなど、漢字に親しめる機会を増やしていく。手を使って書く機会を増やす。漢字小テストは今後も継続して行っていく。

< 中学校・数学 >

強み	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる(+18.6)
分析	学んだ用語を用いて、身近なデータ(最高気温)を元に、レポート作成を行った。また、ICT(ロイロノート)を用いて、お互いの読み取った内容を確認し、他者の意見を聞き改めて作成したレポートについて個人での振り返りを行ったことが、今回の結果につながったと考えられる。
取組	今後も、ICT(ロイロノート)や、協働的な学び、振り返りを取り入れることで、深い学びにつながる授業を行っていく。
強み・弱み	問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるなど(+5.9)
分析	全国平均を上回っているが、1、2年次に学習した内容が定着していない。
取組	既習した内容と今学習している内容が、どのような関連があるかを確認することで、既習した内容の振り返りを行う。

2 質問紙調査(児童生徒・学校)に関する調査の分析結果

(1) 児童生徒質問紙調査に関する結果に関する概況



児童生徒質問紙調査の結果を全国を基準として標準化して図示したものより

(2) 児童生徒質問紙調査に関する結果

①小学校（以下の項目に対する肯定的な回答の割合から強み・弱みに分類を行った）

○強み
【9】自分にはよいところがある (+2.6)
【10】先生はよいところを認めてくれている (+2.7)
【11】将来の夢や目標を持っている (+1.1)
【12】人が困っているとき進んで助けている (+3.1)
【13】いじめは、どんな理由があってもいけないことだ (+2.5)
【14】困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつも相談できる (+4.8)
【19】普段の生活の中で幸せな気持ちになる (+0.1)
【37】授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる (+5.0)
◆全国との比較では下回ったものの、高い結果となったもの
【15】人の役に立つ人間になりたい<95.0%>
【18】友だち関係に満足している<90.9%>
▽弱み
【16】学校に行くのが楽しい (-8.0)
【17】自分と違う意見について考えるのは楽しい (-3.9)
【36】先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている (-5.2)

②中学校（以下の項目に対する肯定的な回答の割合から強み・弱みに分類を行った）

○強み
【4】学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか (+9.8)
【27】1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか (+10.2)
【28-6】1、2年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（6）友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる (+6.1)
【36】先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている (+9.0)
【国1】今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか (+10.0)
【国2】解答時間は十分でしたか（国語） (+12.3)
【数1】今回の数学の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか (+11.7)
【数2】解答時間は十分でしたか（数学） (+7.7)
▽弱み
【14】困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる (-6.4)
【50】数学の勉強は好き (-9.1)

(3) 学習状況や生活習慣の強み・弱みについての分析と今後の取組

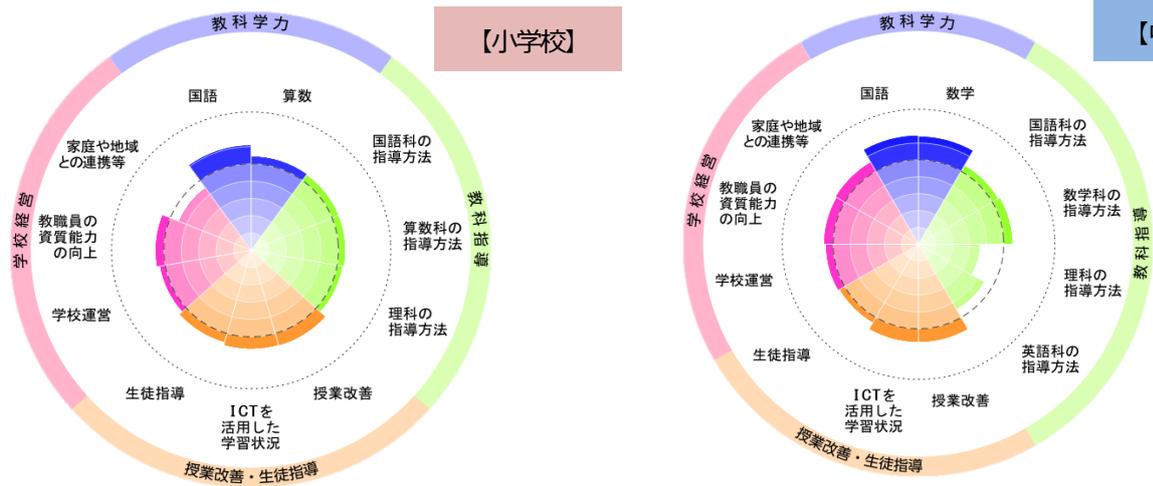
①小学校

強み	自己肯定感が上がってきている。
分析	これまで、本校児童の弱みとして「自己肯定感が高くない。」ということがあり、児童同士がよさを認め合う活動を入れたり、教職員から児童の自己肯定感・自己有用感を高める声掛け（認める・ほめる）をしたりしてきた結果と考えられる。
取組	今後も、児童が主体的に活動できるよう、めあてをもたせ、それに対する互いの認め合いや教職員からのプラスの声掛けを続けていく。
弱み	「学校に行くのは楽しい」と回答した児童が多くない。
分析	不登校児童が特別多いわけではないが、少なくない人数の児童が休んでいたたり休みがちだったりする。
取組	学校は集団生活であり、学習が第一義でもある。ここにストレスがあってはならないので、みんなで学習や活動することの良さ、学ぶことの楽しさを味わわせるよう、授業や学校生活の在り方の改善に努める。
弱み	「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と回答した児童が多くない。
分析	コロナ禍で、話し合い活動を制限して過ごしてきた児童のため、他者とのかかわりで得られる良さを実感できていないと思われる。
取組	本年度、「対話」を重視した研修主題にし、児童が互いの考えを認め合い、学び合う授業づくりに取り組んでいる。引き続き授業改善に取り組む。
弱み	「先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれている。」と回答した児童が多くない。
分析	「国語の授業はよくわかる」(+8.7)「算数の授業はよくわかる」(+3.0)「英語の授業はよくわかる」(+1.1)と回答しており、授業そのものは理解できるようである。しかし、教科担任制となり、各教科担任と児童との接する時間が限られ、個別の対応が十分でないと思われる。
取組	授業時数適正化に伴う教育課程見直しの中で、ゆとりある指導計画を立てるとともに、より一層「わかる授業」を行うことや、個別最適な学びにつながる習熟度別授業を行えるよう、授業改善・指導力向上を図る。
弱み	家庭学習の時間が減り、ゲームや動画に使う時間が増えている。
分析	昨年度までと比較し、スマートフォンを持っている児童が増加している。この割合は、全国とあまり変わらない。しかし、家庭学習の時間が平日30分～1時間、休日1時間未満と回答した児童が一番多くなり、昨年度までよりも30分～1時間短くなっている。反対にゲームや動画を平日3時間以上、休日4時間以上行っている児童は、全国比+3～4ポイントである。
取組	家庭と連携をしながら、児童本人も時間の使い方を意識できるよう、定期的に家庭学習週間を設けたりメディアの使い方チェックをしたりする。

②中学校

強み	<p>【4】学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか</p> <p>【27】1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか</p> <p>【28-6】1、2年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（6）友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる</p>
分析	<p>各教科における効果的なICTの活用を積極的に行っている成果の表れだと捉えている。授業におけるICTの活用と直接的な学力の向上への結びつきについては、今後も検証していく必要はあるが、これからの時代を生きていく生徒にとって、欠かせないツールであることには間違いのないため、今後一層、意識的に授業や家庭の中に取り入れていく必要がある。</p>
取組	<p>一昨年度9月以降、タブレットの持ち帰りが可能となり、昨年度9月より全生徒及び教師用のタブレットが一新され、様々なアプリが導入された。それにより、ICTの活用の幅が一層広がり、個別最適な学習を後押ししている。今後も研修を重ね、より効果的なICTの活用を模索していくとともに、生徒が文房具としてのタブレットと実感できるよう取り組む。</p>
強み	<p>【36】先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか</p> <p>【国1】今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか</p> <p>【国2】解答時間は十分でしたか（国語）</p> <p>【数1】今回の数学の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか</p> <p>【数2】解答時間は十分でしたか（数学）</p>
分析	<p>日頃からの生徒に対する教職員の丁寧な指導が評価され、それが今回の各教科の結果につながったと捉えている。また、休み時間等において、教科に関する質問に答えたり、配付しているシートに工夫を加えたりしていることも、今回の結果につながっていると考えられる。</p>
取組	<p>今後も全職員で授業改善に努め、生徒の「分からない」に丁寧に寄り添い、解決していく取組を継続していくとともに、教職員の授業改善や魅力的な授業展開を図るために、研修委員会が中心となり、教職員のスキルアップのための研修を仕組んでいく。</p>
弱み	<p>【14】困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか</p>
分析	<p>日常でのデイリーノートでの点検や定期的な教育相談・いじめ調査を実施し、校内の相談体制も整備されているが、利用頻度が多いとは言えない状況である。</p>
取組	<p>校内の相談体制について、さらに広く生徒にアナウンスしていくとともに、教職員の教育相談におけるスキルアップを図る研修を実施していく。</p>
弱み	<p>【50】数学の勉強は好きですか</p>
分析	<p>数学科は、積み重ねの教科であり、ある単元でつまづくと、それに関連した単元が理解しにくい状況が生まれることが多い。また、授業のすすめ方や展開においても工夫の余地がある。</p>
取組	<p>まずは、デジタルの活用に一層取り組むとともに、プリント学習等のアナログとの融合させながらを図りながら、授業改善をさらにすすめ、数学科への興味関心を引き出す。</p>

(4) 学校質問紙調査に関する結果に関する概況



学校質問紙調査の結果を全国を基準として標準化して図示したものより

(5) 学校質問紙調査に関する結果

①小学校

児童が落ち着いており、生徒指導上の課題が少ない。児童質問紙でも次のような結果で乖離はみられない。「人の役に立つ人間になりたい。」(95.0%)、「いじめはいけない。」(99.8%)、国語科について、95%以上の児童が、「大切・将来役立つ」と回答し、算数科については、「大切」(93.4%)「役立つ」(95.0%)と回答している。授業・勉強はしなければいけないものだとしてよく理解している。

ICT を活用した学習をよく行っている。児童質問紙でも以下のような結果で乖離はみられない。「授業でタブレットなどの ICT 機器をどれくらい使っていたか」について、「ほぼ毎日」と回答した児童が 32.2% (+6.9)、「週 1 回以上」と回答した児童が 38.0% (+3.8) で、本校では、授業で ICT 機器をよく利用していることがわかる。また、ICT を利用することで、学習にどのような効果があるかについて、「自分のペースで理解しながら学習できる」「分からないことをすぐ調べることができる」「画像や動画などで学習内容がよくわかる」「友達と協力しながら学習をすすめることができる」などに肯定的な回答をしている児童が多い。

②中学校

研修主題として『人間力を涵養する授業づくり～深く学べる手立てと工夫～』を掲げ、「未来で生きる人間力の育成」のために、①多様な他者と協働し、新たな「知」を想像する力 ②思考し、判断し、行動する力 ③自分の良さや可能性に目を向ける力を定義し、研修を推進している。そして、今年度は具体的な取組として、「深く学べる手立てと工夫」の実践例の積み上げの実現に向けた授業づくりに力を入れている。その結果、対象生徒が「国語の授業の内容はよくわかりますか」(+5.8)という項目や、「理科の勉強は好きですか」(+4.2)、「今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」(+10.0)、「解答時間は十分でしたか(国語)」(+12.3)、「今回の数学の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」(+11.7)、「解答時間は十分でしたか(数学)」(+7.7)等、各教科の学習面においては特に、全国平均より高い数値として表れている。

## (6) 学校での取組の成果や課題について

### ①小学校

昨年度までは特に、「めあて」を意識した授業づくりを行うことで、見通しをもって授業に臨む児童の姿が生まれ、児童が、課題ごとに問題意識をもち、主体的に学習に取り組むようになった。また、「振り返り」の中で、児童自身が自分の成長を感じられるようになるとともに教師からの承認や適切な評価もあり、自己肯定感が高くなったことにつながったと思われる。

協力性はあるものの、協働した学びで得られる価値に気付いていない児童が多い。本年度からは、「対話」を重視した研修主題にし、児童が互いの考えを認め合い、学び合う授業づくりに取り組んでいる。ICT の効果的な活用も行いながら、児童自身が考えを広げたり深めたりして互いに高め合う授業を目指して授業改善に取り組む。

「わかる授業」だけでなく、「楽しい授業」も大事にしていけるよう、授業改善を行っていく。

### ②中学校

今年度の具体的な取組としては、大きく三つほど挙げられる。

一つ目は、「深く学べる手立てと工夫」の実践例の積み上げである。単元全体を見通して、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせるような単元の主題を設定することで、どうウェルビーイング<sup>(\*)</sup>を高めるかというテーマを設定し、各教科で授業を展開した。そして、ICT を活用しながら「楽しく」、未来で生きる人間力を育むために「主体的・対話的」な授業構成を組み、「深く」学びをすすめることで、活動を支える生徒のレジリエンスの向上をさせ、逆境や困難に直面した時に回復できる力を養う取組をすすめ、授業の活動に馴染む PERMA 理論<sup>(\*)</sup>を用いて、ウェルビーイングの向上をねらいとした。

二つ目は、「めあて(ねらい)」と「朝日タイム(主体的・対話的で深い学びに向かう問いを考える時間)」「振り返り」を全教科で統一して実施したことである。そこから生徒の学習理解を深め、教職員が明確なビジョンをもって授業デザインをすすめることができた。

三つ目は、ICT の積極的な活用である。先進的に使用している教職員が中心となり、研修会場で使用マニュアルを周知し、教職員の個別スキルを向上させた。効果として、協働的な場が形成されたり、時間短縮につながった。さらに、授業がユニバーサルデザイン化され、教職員は個別支援しやすくなり、全体交流が容易になった。一方、個人の思考を深めたり、整理したりする場面には不向きなことが多いため、振り返りや単元のまとめは手書きを推奨して、デジタルとアナログの融合を図っていく。また、ICT を活用した家庭学習の中で、予習・復習に取り組ませることで、確かな学力の基礎を作っていく。

少人数授業の観点からは、該当学年において、2 年時より数学科や英語科できめ細やかな授業を展開する中で、生徒間での教え合いや聞き合い、学び合いが促進された。特に低学力の生徒や個別の支援が必要な生徒への適切な指導につながったことは大きいと捉えている。

\*「ウェルビーイング」とは、心理的な幸福や満足感を指す。「PERMA 理論」とは、セグリマン教授が提唱した、ウェルビーイングを高めるための 5 つの要素を指す。これらの要素は、P (Positive Emotion)、E (Engagement)、R (Relationships)、M (Meaning)、A (Achievement) である。これらの要素を追求することで、人々は本質的な動機づけを得ることができ、ウェルビーイングを高めることができると言われている。

## 3 朝日町教育委員会による学校支援とその成果等の状況

### ○できることを普段どおり続ける

「継続は力なり。」とは、昔からよく聞く言葉です。学びの場である学校では、特色ある取組も重要ですが、かわり映えしないけれど、同じことを粘り強くこつこつと続けていくことも、学力

の向上には大切なことです。当たり前のことを普段通り当たり前のようにできるということが、学力調査の結果が高くなっている一因ではないかと考えられます。

#### ○細かな分析から授業改善へ

朝日町では、結果を全国の平均値との比較でとらえるのではなく、子どもたちの学力向上の取組において、どのような部分に課題があるのかを丁寧に分析することが大切だと考えています。つまり、学力調査の大きな目的の一つは、調査結果を踏まえての、学校での授業改善につなげることであり、子どもたちにとって、いかに分かりやすい授業をし、子どもたちに、いかに学習内容を身につけさせるかに尽きると考えます。

#### ○どのような授業が結果につながっているのか。

教師が、ちょっとした具体物を提供しながら授業を工夫する。「勉強しなさい！」というよりも、「あなたが数学で習っていることは、こうやって社会で役に立ちますよ。」と気づかせることが、生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」につながっていくと考えられます。このことをベースに朝日町では ICT を効果的に活用できるように工夫を重ね、授業改善に努めていることが良い結果につながっていると考えられます。

## 4 児童生徒の学びの充実を図るための今後の取組

### ①小学校

自己肯定感が高いことは、学習に向かう力の育成にも良い影響があります。今後も、児童がめあてをもって、主体的に学習・活動できる工夫をするとともに、とても頑張ったときやその結果だけ特別褒めるだけではなく、「今のいいね。」のように、今できていることを認める、「あなたのいいところは、〇〇だよ。」「〇〇してくれてありがとう。」などをこまめに伝えていきたいと思います。その上で、「がんばってよかった。」「やればできる。」という達成感を味わえるような場面をつくっていきます。家庭や地域でも、児童の良さや努力している姿を、大いに褒めたり励ましたりして行っていただくことをお願いします。

「早寝・早起き・朝ごはん」といった基本的な生活習慣や、家庭学習の時間の確保、メディア（ゲームや動画）利用のルールを決めることも大事なことです。「家庭学習の手引き」の活用や「メディアチェック」などを行いながら児童も主体的に自己管理できる力を身につけることができるよう、学校と家庭が連携していきたいと思います。今後とも、教育活動へのご理解・ご協力をお願いいたします。

### ②中学校

家庭学習の充実が、子どもたちの学びの充実につながると考えられますので、日頃の授業をどう家庭学習につなげていくかについて、研修会等を通して研究していきます。同時に自己肯定感の涵養についても研究を深め、生徒が主体的に学習に向かう実践を模索しながら、生徒自身が自らを認められるきっかけとなるような様々な活動を取り入れ、人間力の育成につなげていきたいと考えています。

また、本校は日頃より多方面で、大変地域の方のお世話になっています。そのような中で、家庭や地域へ向けて、学校日より等の配付、学校ホームページでの発信、体育祭・文化祭や授業参観等での学校参観等、情報発信に力を入れています。さらに、地元の自動車学校や警察による交通安全教室の開催や職業体験への協力依頼、町民文化祭への作品出品やブラスバンド部の訪問演奏の取組を行い、地域と親交を深めています。今後は、地域の祭りや総合防災訓練等への中学生の参加を学校が奨励し、地域で生きる人材育成を図り、可能な限り地域連携活動に取り組んでいくとともに、コミュニティスクールやPTA、学校アンケートでの保護者・生徒の意見

を参考に学校改革をすすめ、子どもたちにとって居心地のよい学校づくりを進めていきます。

## **5 三重県の公表状況**

三重県教育委員会による県全体の概況等に関する公表内容については、県ホームページを参照してください。